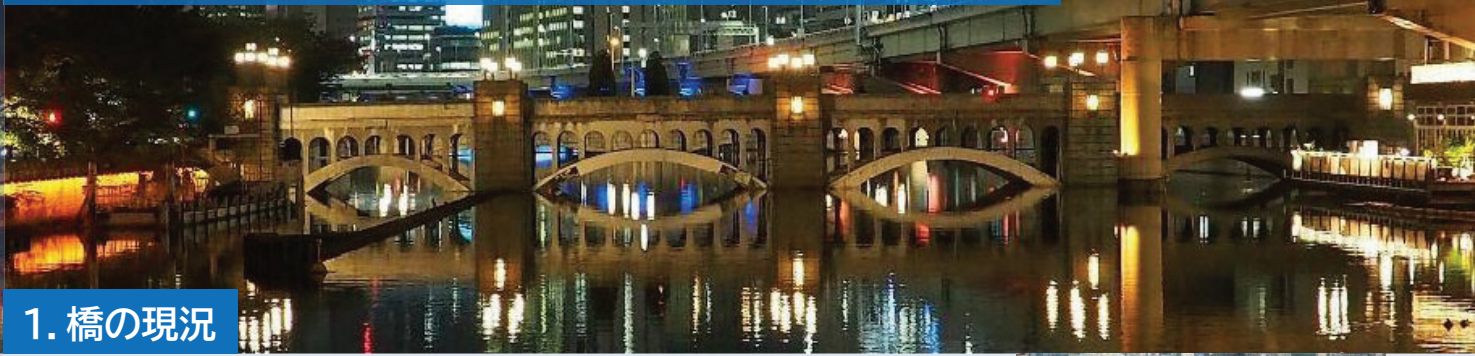


水晶橋



1. 橋の現況

周辺エリア

- 周辺は文化・業務施設が多く見られます。そのため、地域の担い手については存在が薄くなっていますが、一方で文化施設などの指定管理者が存在します。



水晶橋周辺には公園・文化施設が立地

水晶橋

- 橋長: 72.33m
- 幅員: 9.09m
- 竣工: 1929(昭和4)年
- 種類: 歩行者専用橋(人道橋)
元は堂島川可動堰

【特徴】

～インフラ～

- 過去の社会実験を通じて電気・水道・倉庫などのインフラ設備が完備

～景観～

- 堂島川・中之島のビル群・阪神高速のライトアップなどが見渡せる視点場



周辺図

ポテンシャル・連携施設

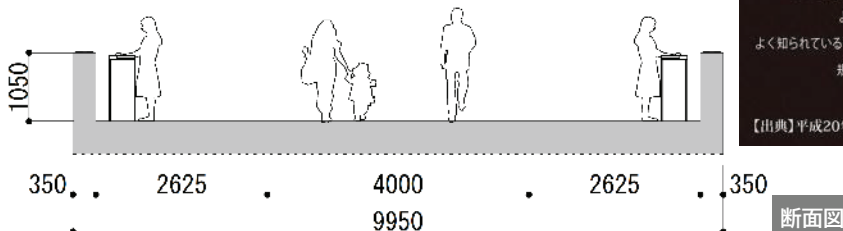
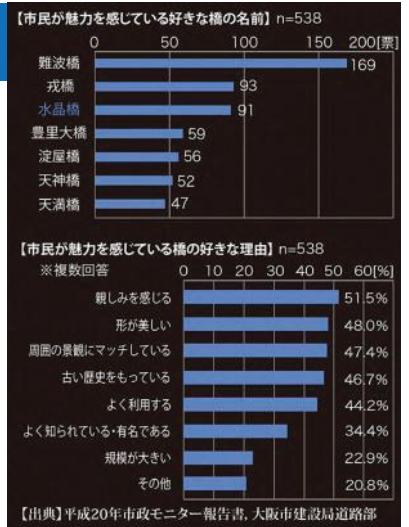
- 橋の上流には可動堰の名残りである導流堤があり、2024年と2025年の水都大阪ブリッジテラスでは、この施設を活用したSUP実験が行われています。
- 中之島公園や近年、歩行者空間化(公園化)が行われた中之島通などでは多様な主体により賑わい活動が行われています。

水晶橋は大阪市内の橋のなかでも特に市民が魅力を感じている橋のひとつ

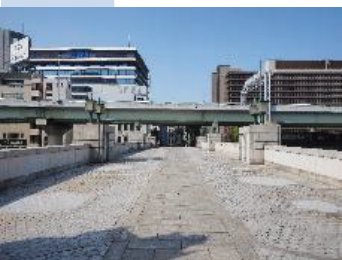


導流堤

中之島公園の賑わい



- 幅約10メートルを有することから、通行帯を確保しながら滞留・賑わいの広場として、多様な活用を行うことが可能です。



2. 社会実験の取り組み内容と検証結果

2023年 中之島ブリッジテラス2023オースタム 2023.10.21



- 市民団体等による橋の日常管理、担い手の発掘・醸成、大阪万博を契機として、橋上空間の魅力発信などを目的とする産官学民で構成する中之島ブリッジテラス実行委員会を発足し、橋上を周辺地域のワーカーや住民の憩い空間として活用する社会実験を実施しました。



【検証結果】

- ① 橋上でのコンテンツ開催による集客や安全性などを確認
- ② 電気・水道・倉庫といったインフラ機能が必要であることを確認
- ③ 既存の植栽プランターが利活用の幅を狭めることを確認
- ④ 飲食販売を階段下部分に設置したが分かりにくく、利用のしにくさを確認

2024年 水都大阪ブリッジテラス2024秋 2024.10.26~27



- ベンチの展開による滞留空間の検討、歴史・文化の発信、マルシェの試行、導流堤を活用した水上さんぽを開催しました。

【検証結果】

- ① 植栽プランターの撤去により、コンテンツ展開の幅が広がったこと、円滑な通行空間を確保可能なことを確認
- ② 導流堤を活用した水上さんぽでは、運用上の安全性をはじめ、利用ニーズ、事業者による事業の可能性を確認



2025年 水都大阪ブリッジテラス2025春 2025.5.15~18



- マルシェや水上さんぽ体験をはじめ、灯籠づくり・ハーバリウムワークショップでの屋台展開、また、ほんのもりピクニックといった周辺エリアとの連携コンテンツを実施しました。
- 2023年の学生ワークショップで検討した、可変的な配置や組合せが可能なユニットベンチの日常的な展開方法を試行しています。

【検証結果】

- ① 形を自由に展開できるユニットベンチは、様々な利用に適應できることを確認
- ② 橋体はインフラツーリズムなどでの活用の可能性があることを確認

水都大阪ブリッジテラス2025秋 2025.10.9・10・12・13



- 2025年秋では、これまでにない取り組みとして人工芝を敷設し、遊具を配したこどものあそび場を設置しているほか、北浜蚤の市との連携を行いました。
- また、春に実施したユニットベンチは設営の負担を減らす寸法に改良を行っています。現地では、レイアウトパターンを複数展開しました。

【検証結果】

- ① 北浜蚤の市をはじめ、エリアでの連携により集客の可能性を確認
- ② ユニットベンチは場を構成する有効な施設ですが、事業者などによる設置、撤収などの運営について課題があることを確認。



水晶橋

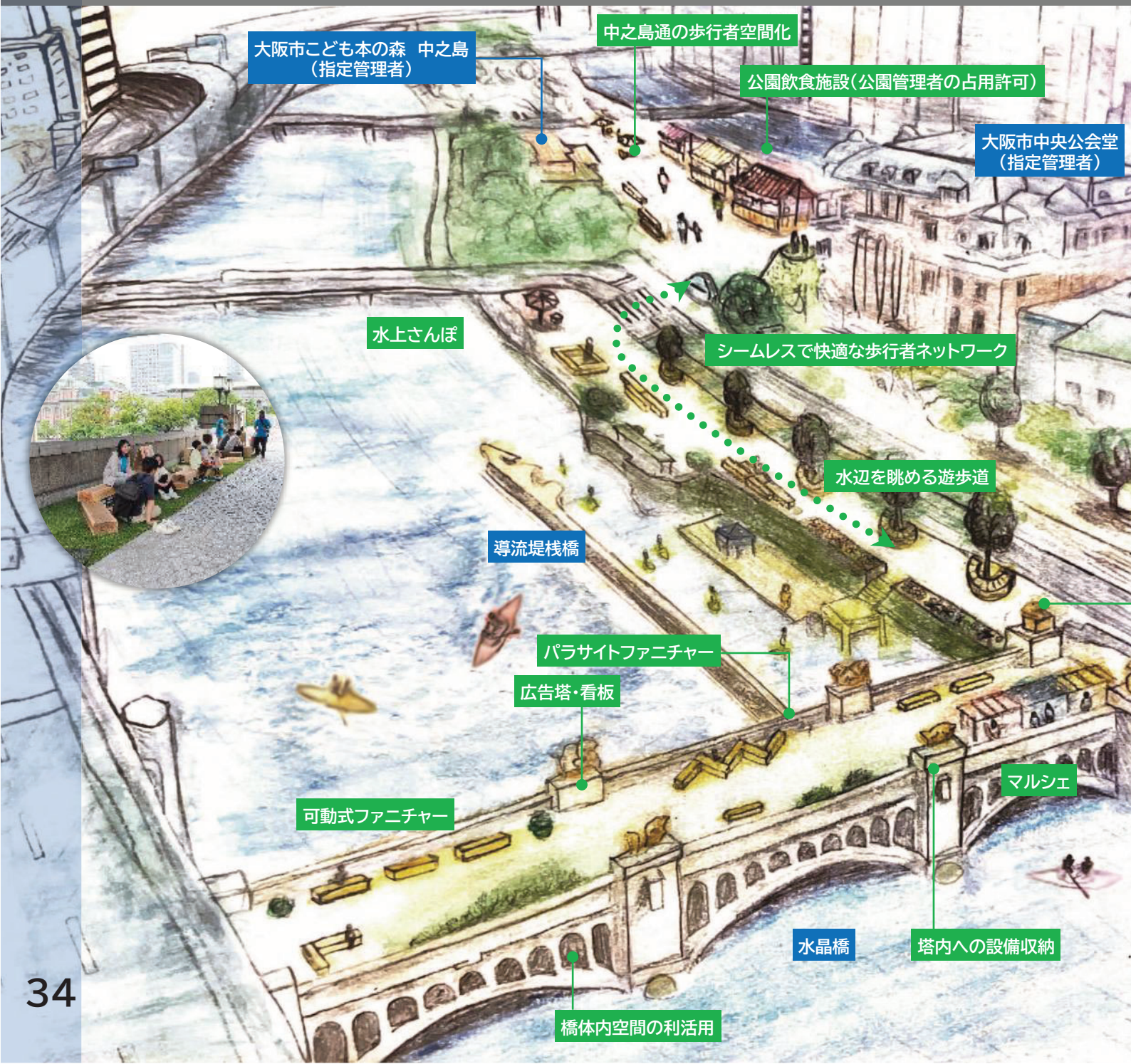
3. 橋とエリアの将来像を示す2030ビジョン

- 幅約10メートルという、ヒューマンスケールの空間を持つ人道橋という特性を活かして、滞在機能とともに、来訪者が地元企業、他都市関係者などとの多様な交流機会の創出、ひいてはイノベーションの創出などによるエリアの活性化などに期待が持たれます。



水都大阪にふさわしい橋上空間の魅力向上に向けたコンセプト

水と時の流れに触れ、歴史と人を繋ぐ橋

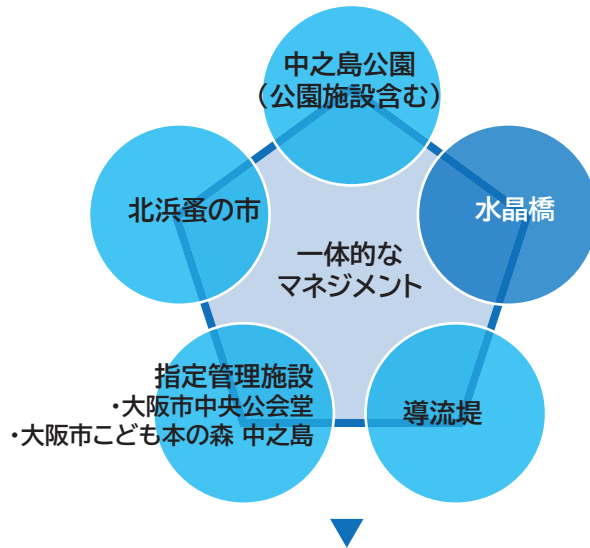




官民連携によるプランター管理

エリアの一体的な活動イメージ

- 水晶橋は橋単独でのマネジメントではなく、周辺エリアと一体的にマネジメントを行うことで、中之島公園を含めたエリア全体の魅力を高めることが期待されます。



- エリア全域を活用した魅力向上
- マネジメント活動の効率化



沿道地域による面的なイベント



水晶橋



導流堤

水晶橋

4. 2030に向けたロードマップ

「水都大阪ブリッジテラス2030ビジョン」策定 ▼

第1フェーズ(～2025年)

第2フェーズ(2026年～)

試行期間

ネットワーク
促進期間

利活用ポテンシャルの検証

■ ハード施策 [空間デザイン/機能]

■ 滞留空間と通行空間の断面(幅員)の検証

- 植栽プランターの撤去により、コンテンツ展開の幅が広がったこと、円滑な通行空間を確保可能なことを確認

■ エリア活動を促進するインフラ設備の検証 (電気・水道・倉庫)

- 電気設備の改良
- 既存水道設備の改良が必要であることを確認
- 活動に必要な倉庫容量を確認

■ ユニットベンチのレイアウト検証

- 形を自由に展開できるユニットベンチは、様々な利用に適應できることを確認

■ 導流堤の利活用試行

- 導流堤を活用した水上さんぽでは、運用上の安全性をはじめ、利用ニーズ、事業者による事業の可能性を確認

● ソフト施策 [マネジメント]

● 事業ニーズの検証

- 橋上での販売を通じた飲食・ランチニーズを確認

● プレイヤーの発掘

- 水上アクティビティ・飲食・マルシェなど多様なプレイヤーによるコンテンツ・賑わいの創出

● エリア連携のあり方の検証

- 北浜蚤の市やこども本の森 中之島などとの連携

● 橋体内の利活用試行

- インフラツーリズム(橋体)の可能性を検証

■ ハード施策 [空間デザイン/機能]

- 周辺エリアとの連続性を確保する動線・誘導内容の検証
- 水道設備の改良

[第2フェーズの主な取組み]



A案:横並び配置
横軸方向に沿った連続的な滞留

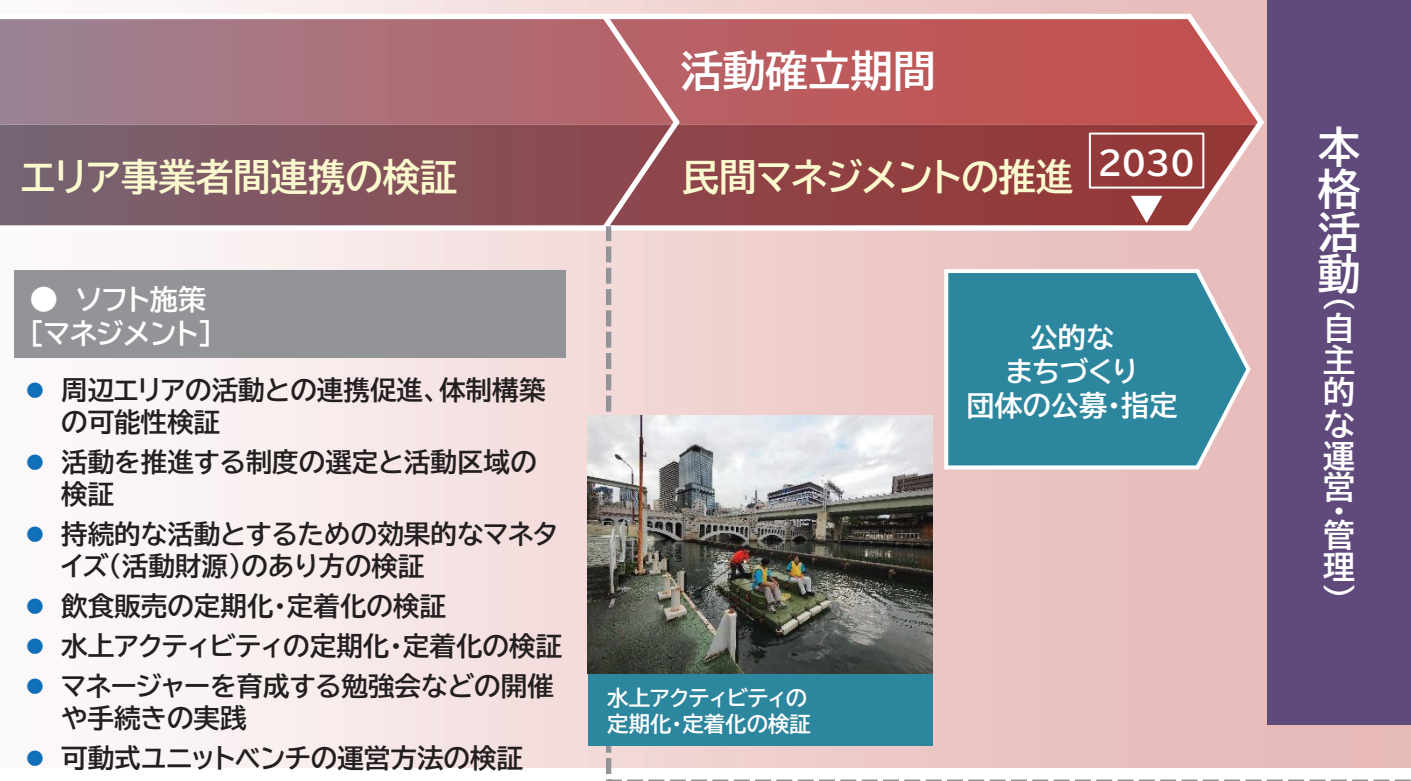


C案:ハの字
少人数での空間利用、
ソシオパタル・ソシオフーガル

※（仮称）橋上空間等のマネジメント基本方針
橋の維持管理や賑わい創出などのマネジメントに係る
考え方やルールをまとめたもの

▼ 「（仮称）橋上空間等のマネジメント基本方針※」策定

第3フェーズ（2028年～）



本町橋



1. 橋の現況

周辺エリア

- 本町橋が架かる東横堀川では、「東横堀川等の水辺の魅力空間づくり基本方針」がとりまとめられ、公民連携による利活用・維持管理を見据えた事業を推進していくこととされています。
- 本町橋に近接してβ本町橋(「本町橋BASE」)にぎわい創造拠点創出・管理運営事業)が2021年8月28日に開業しています。この施設では、日常的な水辺のにぎわい創出をはじめ維持管理事業に取り組むこととしており、橋上での緑化、清掃といった活動を行っています。



β本町橋



東横堀川遊歩道と船着場

本町橋

- 橋長:46.50m
- 幅員:21.56m
- 竣工:1913(大正2)年

【特徴】

～インフラ～

- 橋詰に緑化活動を推進する散水栓を設置
- 河川事業により、遊歩道に電気設備を設置



周辺図

- マイドームおおさか
- β本町橋
- シティプラザ大阪
- 本町橋船着場
- 本町通

● 大阪メトロ 堺筋本町駅

● 堺筋

ポテンシャル・連携施設

本町橋は現役の橋としては
大阪市内最古の橋“本町橋”



市民活動



本町橋船着場



ライトアップ



橋下の遊歩道

- 中央区役所が窓口となり、市民主体による橋洗いが定期的に行われています。
- 東横堀川で初となる船着場で、公園と一体となった都市型公民館β本町橋の地先に立地しています。
- 桁の側面と下部、橋台のライトアップを行っています。
- アーチ桁のライトアップが行われている橋下の遊歩道は、飲食や展示など多様な活動を行うことができます。

2. 社会実験の取り組み内容と検証結果

2006年～2021年



2015年 東横堀川初の船着場「本町橋船着場」整備

2021年 水辺のにぎわい拠点「β(ベータ)本町橋」開業

2024年 水都大阪ブリッジテラス2024秋 2024.10.26～27



- バルコニー利活用をはじめ、休憩スペースの提供、ライトアップ実験、本町橋100年会コア会議などを実施。
- 社会実験に先立ち10月13日には、緑化活動として「ハンギングフラワーワークショップ」を開催。

【検証結果】

- ① ライトアップは夜間における安全性の確保とともに、夜間のアイキャッチとして有効であることを確認
- ② バルコニー部の多様な活用に向けては、石材が支障になることを確認
- ③ ハンギングフラワーは演出要素として有効であるが、維持管理面で負担が大きいことを確認



バルコニー部の石材撤去

2025年 水都大阪ブリッジテラス2025 2025.5.8～11

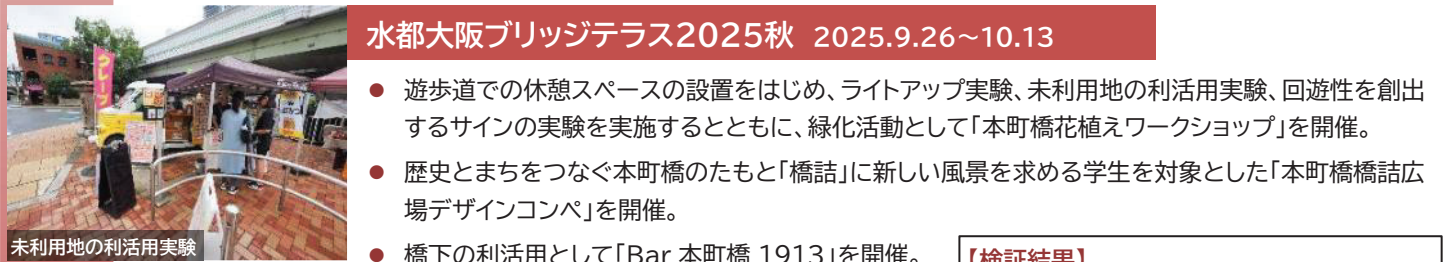


- 社会実験に先立ち4月27日には、緑化活動として「本町橋花植えワークショップ」を開催。
- 遊歩道での休憩スペースの設置をはじめ、ライトアップ実験、未利用地でのインフォメーションブースを設置。

【検証結果】

- ① 本町橋と北東部の未利用地は、橋と遊歩道をつなぐ場として有効であることを確認
- ② 橋を巡る水と光のモニタークルーズを通じて、橋詰や橋下の活用ニーズを確認

水都大阪ブリッジテラス2025秋 2025.9.26～10.13



- 遊歩道での休憩スペースの設置をはじめ、ライトアップ実験、未利用地の利活用実験、回遊性を創出するサインの実験を実施するとともに、緑化活動として「本町橋花植えワークショップ」を開催。
- 歴史とまちをつなぐ本町橋のたもと「橋詰」に新しい風景を求める学生を対象とした「本町橋橋詰広場デザインコンペ」を開催。
- 橋下の利活用として「Bar 本町橋 1913」を開催。

【検証結果】

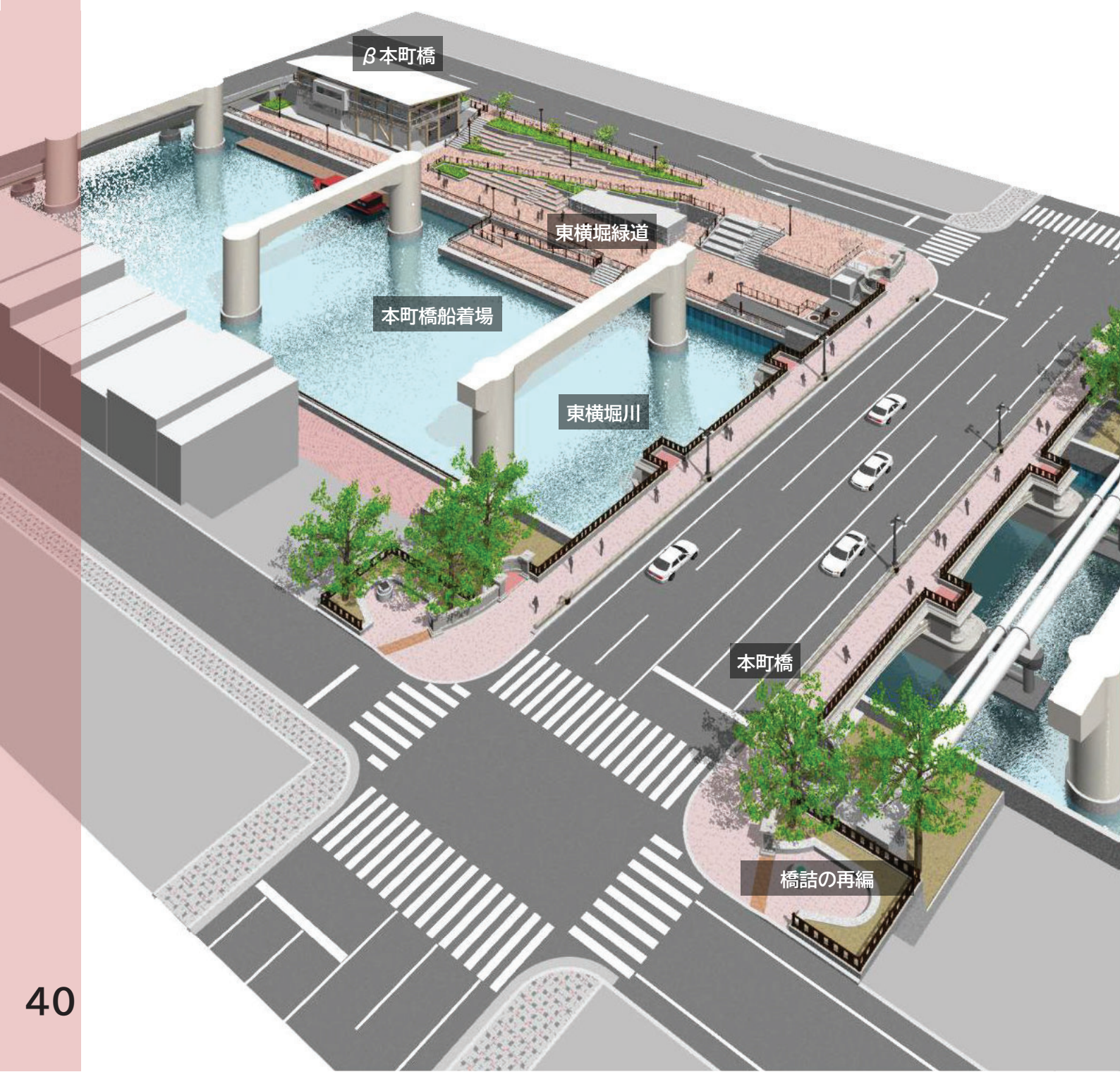
- ① 未利用地は収益活動を行う場として有効であることを確認
- ② 橋下は多様な利活用が行えることを確認
- ③ サインは橋上と橋下をつなぐ要素として可能性があることを確認
- ④ コンペでの多様なアイデアから、橋詰の活用はマネジメント推進の可能性を確認



本町橋

3. 橋とエリアの将来像を示す2030ビジョン

- 歴史性のある本町橋は、現状においても市民に愛され、様々な方々によるマネジメントが行われています。
- 更なる担い手として、これまでに関わりのない企業などが支援をしたくなる橋づくりを行い、持続可能なマネジメント体制の構築と魅力向上につなげるものとします。
- あまり活用がされていない橋詰空間のあり方、ゴミのポイ捨てや不法占用などの課題解決方法を社会実験を通じて検証し、その結果をふまえて再整備や休憩施設の設置などの検討を進めます。
- また、遊歩道整備により通行が可能となった橋下空間の利活用スキームを検討します。



- 既存ケヤキの活用
- 環境に配慮をした橋詰の整備
- 持続可能な地域活動を推進する仕組み



Sustainable
環境にも経済的にも

水都大阪にふさわしい橋上・橋下空間の
魅力向上に向けたコンセプト

地域活動の場となる橋

Well Being
居心地よく
また行きたくなる

Connect
地域と繋がる
人とも繋がる

- 夏場のクールスポットとなる既存のケヤキの緑陰
- 橋下空間の利活用
- 多様なニーズに対応する空間

- 清掃、ごみ拾い活動は定期開催
- 大学・地域による橋詰めのデザイン



橋詰の利活用



地域による緑化



橋下空間の利活用(水都大阪ブリッジテラス2025秋)

本町橋

4. 2030に向けたロードマップ

「水都大阪ブリッジテラス2030ビジョン」策定 ▼

第1フェーズ(～2025年)

第2フェーズ(2026年～)

試行期間

活動促進期間

利活用ポテンシャルの検証

■ ハード施策 [空間デザイン/機能]

■ バルコニー空間のあり方の検証

- バルコニー部の高欄ライトアップや地域活動は不適切な利用の抑制効果があることを確認
- 景石の撤去

■ 橋下空間のあり方の検証

- 橋下は多様な利活用が行えることを確認
- 地域活動は不適切な利用の抑制効果があることを確認

■ 橋詰空間の利活用試行・管理区分の検証

- 未利用地は収益活動を行う場として有効であることを確認
- コンパでの多様なアイデアから、橋詰の活用はマネジメント推進の可能性のあることを確認

■ エリア活動を促進するインフラ設備の検証 (電気・水道・倉庫)

- 電気設備の改良
- 水道設備の設置
- 活動に必要なとする倉庫容量を確認(β本町橋連携)

■ 安全・安心・魅力の向上を図る空間の検証

- 橋下ライトアップによる防犯効果を確認

■ エリアと橋をつなぎ回遊性を向上させる案内誘導サインのあり方の検証

- サインは橋上と橋下をつなぐ要素として可能性があることを確認

● ソフト施策 [マネジメント]

● プレイヤーの発掘(求められるコンテンツ)

- 清掃・花植え活動の実施
- 橋詰、橋下空間の運営、事業者ニーズがあることを確認

公的な
まちづくり
団体の公募・指定

■ ハード施策 [空間デザイン/機能]

- 橋詰空間の検証・整備
- 歩道舗装の改修
- 案内誘導サインのあり方の検証(継続)
- ライトアップの本格実施

[第2フェーズの主な取組み]

- 安全性を確保するとともに、水都大阪の資源、大阪市指定文化財を美しくするライトアップの本格実施に取組みます。



桁・橋脚

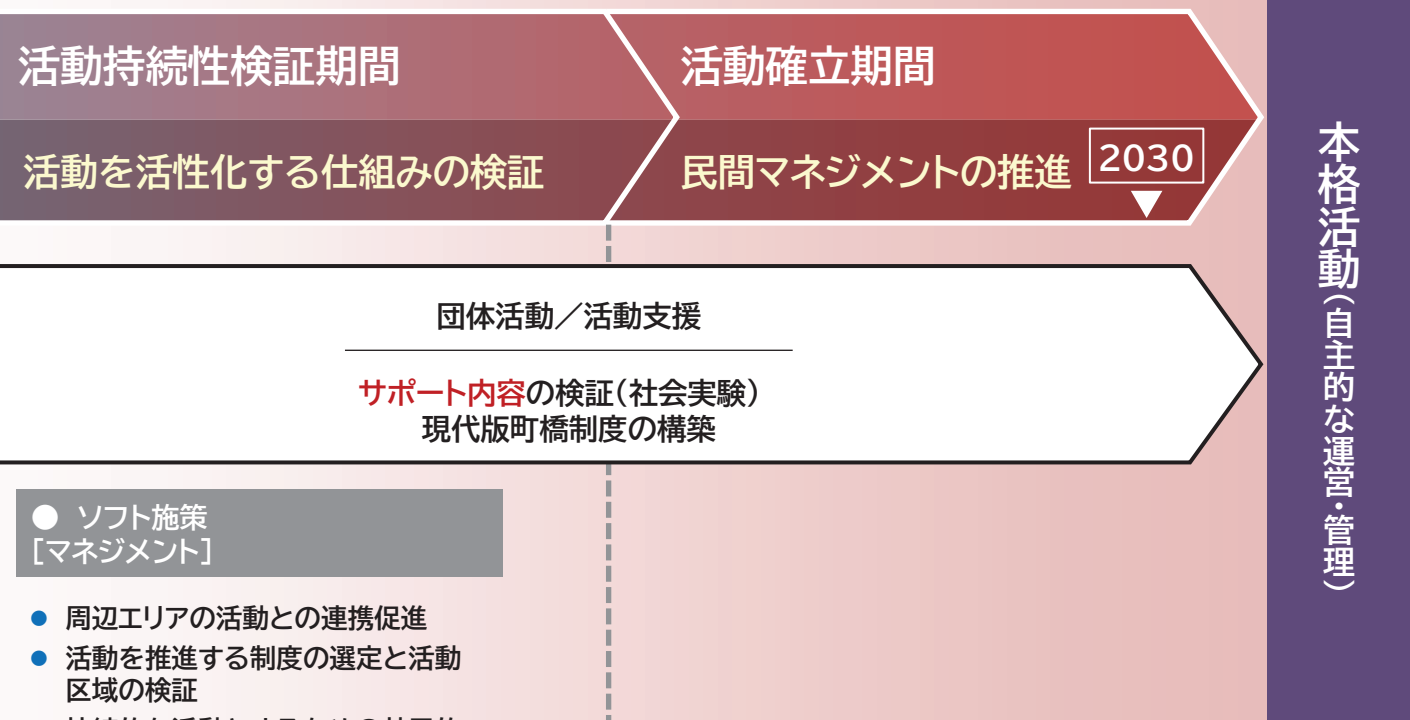


高欄

※（仮称）橋上空間等のマネジメント基本方針
橋の維持管理や賑わい創出などのマネジメントに係る
考え方やルールをまとめたもの

▼ 「（仮称）橋上空間等のマネジメント基本方針※」策定

第3フェーズ（2028年～）



● ソフト施策
[マネジメント]

- 周辺エリアの活動との連携促進
- 活動を推進する制度の選定と活動区域の検証
- 持続的な活動とするための効果的なマネタイズ（活動財源）のあり方の検証
- 飲食販売の定期化・定着化の検証
- マネージャーを育成する勉強会などの開催や手続きの実践



案内誘導サインのあり方の検証

ライトアップの本格実施 橋詰空間の検証・整備／飲食販売の定期化・定着化の検証



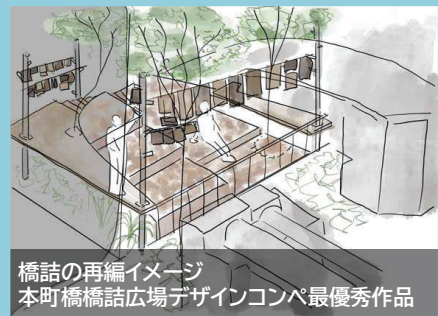
植栽・親柱



バルコニー



マルシェ



橋詰の再編イメージ
本町橋橋詰広場デザインコンペ最優秀作品

- 江戸時代、橋のたもとの詰め広場（橋詰）は交通や情報の拠点、コミュニティースペースとして活用されていました。このように橋と川、まちをつなぐ拠点として、憩い・交流空間の創出、情報発信、地域コミュニティの活性化を図る橋詰空間の形成を進めます。

おわりに

水都大阪ブリッジテラス2030ビジョン策定にあたり、水都大阪ブリッジテラス社会実験などの取組みを行ってきました。社会実験では、産官学民で構成する中之島ブリッジテラス実行委員会を中心としながら、地元地域、地元店舗、企業、学校、まちづくり団体、他都市などの協力、参画をいただき、行政だけでは対応できない多様な取組みを行うことができました。

心より感謝申し上げます。

今後、ビジョンで示している、水都大阪にふさわしい橋上空間に転換していくためには、水・時・人が交わる、まちの拠点に向けた取組みを進めていくことが必要であると考えています。

水都大阪ブリッジテラス2030ビジョンの実現に向けて、あらためて皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

中之島ブリッジテラス実行委員会（中之島ガーデンブリッジ/錦橋/水晶橋）

- 大阪工業大学 空間情報学研究室/大阪公立大学 景観計画学研究室/大阪公立大学 都市計画研究室
大阪公立大学 緑地計画学研究室/大阪産業大学 川口研究室/大阪市建設局道路河川部橋梁課
大阪府西大阪治水事務所/北新地みらい会議/京都大学 景観設計学分野/京阪ホールディングス(株)
水都大阪コンソーシアム/(仮称)中之島広場沿道連絡会/(一般社団法人)中之島まちみらい協議会
中之島連合振興町会/(一般社団法人)水辺ラボ/ANA クラウンプラザホテル大阪

- 本町橋は東横堀川水辺プラットフォーム検討会と連携し開催

東横堀川水辺プラットフォーム検討会

有識者/東横堀川水辺再生協議会/本町橋100年会/(一社)日本シティサップ協会/(一社)水辺ラボ
大阪市中央区役所/大阪市経済戦略局/大阪市建設局



水都大阪ブリッジテラス2030ビジョンについて

- 本ビジョンは、都心部における橋のめざすべき姿、取組みの方向性を示したものです。
- 今後、社会実験での検証や担い手となる団体をはじめ多様な関係者間で協議・調整を図りながら橋の特性に沿った取組みを進め、水都大阪にふさわしい橋上空間の魅力向上をめざします。

水都大阪ブリッジテラス2030ビジョン(案)

発行:2026年5月(予定)

大阪市建設局道路河川部橋梁課

〒559-0034大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビルITM棟6階